Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第202号

ななえ古写真物語
VOL.202

空から

街のデザイン
昭和46年
本町地区

便利な世の中になったもので、パソコンやスマートフォンなどの画面上で、立体的に地図が見られる時代になった。しかも、本当にその場を歩いているかのように360°見渡すことが出来るし、行ったことのない町でも、散歩しているかのごとく画面を操ることができるのだ。世代的に、大きな紙を細かく折りたたんで、懐に入るサイズにしたものこそ「地図」だとインプットされていたので、初めて操作した時は驚きを隠せなかった。

なので、空から町を眺めることが簡単にできるデジタルの時代は、ヒトが火を扱い操るようになったくらい画期的な進化に思えた。それまでは、飛行機から撮影された数少ない上空写真（しかも可動はしない）によって、町の姿を可視化するくらいだったのでなおさらだ。

さて、上の写真は昭和46年撮影と書かれていた七飯町本町周辺の上空からの写真である。中央左上から右下にかけて、斜めに走る直線が、現在の国道５号に相当する。また、直交するように右上から左下にかけて走る道が、函館新道の本町ICから下って北斗市へ向かう道で、写真からは主要道路に沿って住宅が密集し、街を形成しているのが伺える。たかだか50年ほどしか経過していないのだが、現在の市街中心部にかかわらず、畑地が多く見られることがわかる。

また、中央部に空白部が認められるが、これは七重小学校のグラウンドで現在も位置は変わらない。しかし、その山側にあるはずの七飯町役場、文化センター、歴史館は見当たらず。当館横に現存する「文化の森」と呼ばれる杉林が、グラウンドから少し離れた山側に、横長に広がっている。このあたりについて、1984年に発行されたゼンリンの住宅地図「七飯町」で対比したら、「函館営林署七飯種苗事業所」で管理している土地であった。当館も文化センターもその跡地を利用して建設された（役場も同様）ことは、長く七飯町に住まっている人には、近しい歴史だろうが、そうでない人には想像もできない事だろう。

さらに、この時はまだ現在の役場庁舎も、スポーツセンターも本町見晴公園もなく、畑地もしくは空き地のような場所となっている。そこへ役場や文化施設などの主要な建物が集約的に配置され、現在の七飯町の中心部がデザインされたのだ。しかも歴史ある森林などは残しつつ、後世に引き継いでいることが伺える。

人がくらしている以上、街の変容は抗いようがない現実として存在する。ただ、その変化を俯瞰した時に、常に後世の人に対し恥ずかしくない決断だったのか、思慮することが肝要だと思う。街をデザインするということは、それくらい難しく、責任重い事だから。

日進月報

<2024. 9>

5日　夜の博物館第4夜

「発掘にみる中世の館跡」と題し、上ノ国町教育委員会学芸員の塚田直哉氏を講師にお迎えし、北海道の館の成立（15世紀中ごろ）から近年の発掘調査で新たにわかったことまで、幅広い内容の講座でした。興味深かったことは、その出土品です。すり鉢の煤の成分を化学分析したところ、魚類や海獣類を食べていたこともわかり、鍋としても使っていたそうです。また花沢館から見つかった懸け仏は、腕が６本あったことや、山城ではお茶道具が多く出土することなど、頷きながら聞く皆さんの様子が、印象深く映る最終夜の講座でした。

8日　ジュニア探検クラブ

弘前大学の学術調査の発掘現場にお邪魔して、体験発掘を行いました。説明してくれた弘前大の上條教授に「みなさんは2700年前の土の上に立っています。」と言われると、急に足元を見る子どもたち。トレンチの中にこわごわ入っていきスタート。大学生のお兄さん、お姉さんにもすぐに打ち解けて、学校の話や食べものの話もしたりする子も見られました。あまり遺物を見つけることはできなかったのですが、貴重な体験になったと信じています。

遺跡見学会

９月２日から、約２週間、七飯町で約２５年ぶりとなる発掘調査が大中山３・１３遺跡で行われました。弘前大学北日本考古学研究センターの学術調査の一環で、それに伴い、調査の目的や遺物の解説、立地のこと、津軽平野での発掘調査との関連などの説明をお聞き頂く、遺跡見学会を行いました。晴天の午後、興味ある多くの方々がグリッドやトレンチを囲い、弘前大教授の上條氏の解説に耳を傾けました。遺物の発見から夢がふくらむ調査を知る時間でした。

11月の予定

1	金	
2	土	
3	日	文化の日
4	月	振替休日
5	火	休館日
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	休館日
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	休館日
19	火	
20	水	ピチャリ第203号発行
21	木	
22	金	
23	土	ジュニア探検クラブ
24	日	
25	月	休館日
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	

※休館日：5日、11日、18日、25日

豆たたき棒

叩いて豆を脱穀する道具で、常設展示室の「秋」の道具の場所にあります。どんな木で作ったのは不明ですが、知恵の賜物を感じる道具。

編集後記　～tawagoto～

１３年と１７年周期の素数ゼミが重なった今年の夏、風流とはあまり感じられないくらい、鳴き声が響いた夏だった。そして今秋もカメムシの発生の時季になった。窓に忍び寄る姿を見ると、あぁ、今年もやって来たと思う。秋を感じると言えば、食べものもある。町の特産物であるリンゴ、ブドウ、プルーンなど果樹はもちろんコメも然り。山々の葉が色付いたと思ったら、落ちるのも早い。秋と冬は年々近く感じる。

Pichari ～ピチャリ～

第202号

令和６年10月２０日発行

七飯町歴史館

〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail：rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp